

講義名	日本経済論		
担当教員	上瀧 真生		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

現在、日本経済は転換点に立っている。グローバルな経済発展のなかで、日本経済がどのように歩むべきかが問われている。この講義では、前半で働く人々の状態という見地から日本経済の現状を考察し、後半で第二次世界大戦後、日本経済が歩んできた道程を考察する。これらをもとに、今後の日本経済のあり方を受講生とともに考えたい。

到達目標

今日の働く人々の状態を日本経済の現状との関係で理解し、自分なりの考えをもつことができるようになる。
第二次世界大戦後の日本経済の歩みについて理解し、自分なりの考えをもつことができるようになる。
以上を踏まえて、今後の日本経済のあり方について考えることができるようになる。

提出課題

毎回の講義でクイズを課す。
中間レポート試験を課す。
期末レポート試験を課す。
*これらについては、RYUKA Portal のレポート機能による提出を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回のクイズについては、教務連絡を通じて採点結果を伝え、次回講義時にコメントする。
中間レポート試験については、採点結果を伝えるとともに、講義時にコメントする。
期末レポート試験については、要望があればコメントを付して採点結果を伝える。

評価の基準

自らの講義で行うクイズ、中間レポート試験、および期末レポート試験の総合評価（単純合計）による。これらを通じて、三つの到達目標についての到達度を測る。

クイズ 30点満点（毎回 2点×15回）
中間レポート試験 40点満点
期末レポート試験 40点満点

履修にあたっての注意・助言他

できるだけ身近な問題と関連づけながら講義するつもりであるが、受講生も新聞や雑誌などの関連記事に目を通して、今日の日本経済をめぐる問題を知る努力をしてほしい。

対面講義では、以下のとおり、受講ルールを定める。
 (1) 授業開始後15分を超過した場合は入室を認めない。
 (2) 席間については教員の指示に従う。
 (3) 私語厳禁。目にあまる場合は退室してもらおう。
 (4) 携帯電話などの電源は切る（レジュメへの書き込みなどのためにPCやスマートフォンを使用する場合は例外とするが、写真撮影は禁止する）。

教科書	.教科書は使用しない。			

プリント資料及び参考文献

RYUKA Portal の講義連絡を通じてレジュメ、資料を配信する。
配信は講義日の2日前を基本とする。
受講生は、これらをダウンロードし、印刷するなど、講義に向けて準備すること。

授業計画

01. はじめに / 現在の日本経済を考えるために
 02. 働く人々の状態からみた日本経済 雇用・失業をめぐる状況(1)
 03. 働く人々の状態からみた日本経済 雇用の・失業をめぐる状況(2) / 賃金をめぐる状況(1)
 04. 働く人々の状態からみた日本経済 賃金をめぐる状況(2)
 05. 働く人々の状態からみた日本経済 労働時間をめぐる状況
 06. 働く人々の状態からみた日本経済 男女の働き方のちがい(1)
 07. 働く人々の状態からみた日本経済 男女の働き方のちがい(2)
 / 日本経済の歩み 戦後日本経済の歩みと私たちの人生
 08. 日本経済の歩み 戦後復興
 09. 日本経済の歩み 高度経済成長(1)
 10. 日本経済の歩み 高度経済成長(2)
 11. 日本経済の歩み 安定成長と貿易摩擦
 12. 日本経済の歩み バブルとバブル崩壊
 13. 日本経済の歩み グローバリゼーションの中の日本経済(1)
 14. 日本経済の歩み グローバリゼーションの中の日本経済(2)
 15. 日本経済の歩み 日本経済の課題

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の復習 20時間
 中間レポート試験の準備 20時間
 期末レポート試験の準備 20時間

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

日本経済論は、経済学部 学部専門基礎科目に配置されている経済学科・経済情報学科共通の6科目中の1科目である。到達目標・・・を達成することによって、カリキュラムポリシーで言う「学部専門教育の基礎」の形成に寄与する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

クイズについて、講義時に必要なコメントを行う。
できる限り、受講生が意見を述べられる機会をつくる。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

このシラバスは対面講義を前提としている。
新型コロナウイルス感染症の状況などによって、シラバス変更がありうる。
RYUKA Portal の講義連絡やメールなどをこまめにチェックすること。